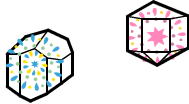


Coffee break



H29. 6. 5 (月)

桶売小学校長 本名 武



「研がれる」ありがたさ

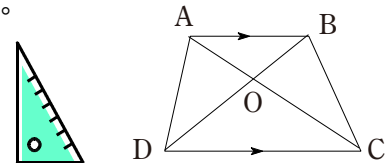


現職教育での「研修」ありがとうございました。子どもたちの「できた！分かった！」に直結する「やってよかった！」と言い合える実のある「現職教育」を積み重ねていきましょう。

さて、「研修」の「研」は、「研（と）ぐ」「研（みが）く」と読みます。**研がれることは、多少の痛みを伴うもの**です。寝ずに展開案を考え、作成した指導案や発問。事後研などでバツサリと斬られるとへこんでしまいます。しかし、刀も研がなければ名刀になり得ません。宝石も研がなければ、ただの石ころのままです。私たちは、**研がれた分だけ「キラリと光る」**ことができます。そのことに真摯に向き合うことが**「子どもたちが勉強を、先生を好きになる。保護者が信頼を寄せる。」**ことにつながります。「若いときの苦労は買ってでもせよ」とも言われます。本気でぶち当たって、むしろ、**たくさん研がれる研修**にしていきたいと思います。



伏線を敷く



算数科では、**学び（練り上げ）**で得た「**数理的な処理のよさ**」が、次の課題解決の大きな「**ヒント**」となるという授業パターンが連続します。

例えば面積の学習の「**等積変形**」や「**倍積変形**」。なぜ、単元の一番はじめに「**平行四辺形**」を扱うのか。長方形に変形できる平行四辺形を印象づけをしておく、「**三角形をどうにかして（長方形か）平行四辺形に変形（ヒント1）**できれば解決できる！」という「**解決の予想**」につながります。またここで、三角形をひっくり返して合わせると平行四辺形になる（**倍積変形：ヒント2**）についても学びます。ここでは、等積変形は「**マス目上に描かれていないと難しい**」「**切り刻むより2つ合わせて形を作る**」という図形の見方を練り上げ（印象づけ）ておくことが次の課題の図形：台形にも生きます。台形では、**ヒント1とヒント2が課題解決の「予想」となり、学びが連続**します。三角形での学びと同様、ひっくり返して2つ合わせ平行四辺形にできるという**ヒント1・2・・・**。この図形の見方、**÷2のイメージが予想の段階で出てくるか否かは前時の練り上げ（印象づけ）にかかっているとも言えます**。よく、**前時の練り上げ（印象づけ）部分を教室壁面の学習コーナーに貼り、さりげなく子どもの目につくようにしておくのを目にします**。最後のひし形の求積まで、**太く長く続く伏線**が、確かに単元にはあるのです。

前時の皆で作りに上げた「数理的な処理のよさ」を少し加工・進化させると本時の課題が解決され、**新しい数理のよさが生まれる・・・系統的学問である算数の特質**です。算数科においては、子どもたちにその特質をつかませることと、「**伏線を敷く**」ことを大切にしたいです。